

1. 目指す学校像

建学の精神である「力の人」、そして「高い志」「豊かな感性」「他への思いやり」という3つの教育理念を踏まえ、主体的に未来を創る女性を育てる。

「自学主義」の伝統に則り、知識蓄積と知識活用を両輪に「対話的で深い学び」を軸とした、21世紀型の学力を身につける授業を展開する。

2. 中期的目標

5ヶ年計画（2016～2020）

1. 教育力の強化
2. 組織力の強化
3. 財務力の強化

上記3点を目標に改革を進める。

1. 教育力の強化

（1）生徒学力の向上

- ① 模試偏差値と大学入試結果向上を目指す。
- ② コース毎に必要なとされる高い教育力・授業力を実現するため、教員研修を実施する。
- ③ 生徒の多様な希望に応じたきめ細かい進路指導を行う。
- ④ 生徒の基本的な生活習慣を確立する。

（2）学習環境の増強

- ① ICT を利用した個別の学習機会を拡大する。

（3）指導体制の充実

- ① エンロールメントマネジメントを実施し、成績等の生徒情報をビッグデータ化する。
- ② 進路分析会を実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標共有を行う。
- ③ シラバス見直しを行い、コース・学年の資格取得や模試偏差値に目標を設定する。

2. 組織力の強化

（1）ガバナンスの強化

- ① 予算編成を複数年化する。
- （2）教職協働による組織風土の改革
- ① 入試に係るデータ分析の精度向上を目指す。
- ② 事務機能を強化し、教職協働を促進する。

（3）教育環境の整備

- ① 生徒数に対して適正な教室数を確保する。

3. 財務力の強化

（1）募集強化による予算基盤の安定

- ① 中学での入試行事参加者を増やし、実出願率の上昇を目指す。
- ② 高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の上昇を目指す。

自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>本校では「部署毎の年度総括」「保護者評価アンケート」「生徒授業アンケート」の3種類の資料を元に自己判断を行っている。</p> <p>(1) 教育課程について 教育課程の適切な整備については、82%が肯定的な意見、進路指導體制については71%が肯定的な意見を述べている。保護者のニーズを汲み取り、満足度の更なる向上を目指す。</p> <p>(2) 学習指導について 学力向上や学習内容の定着について、75%が肯定的な意見を述べている。生徒アンケートを利用しながら、学力と学習について更なる充実を図る。</p> <p>(3) 進路指導について 進路指導の充実、進路情報の提供について、肯定的な意見は70%であった。教育課程・学習指導の評価と連動した結果となっている。</p> <p>(4) 生徒指導について 生活指導の充実、人権教育の充実、差別やいじめの防止に関する肯定的な意見は80%を超えており、現行の指導が一定の成果を上げていると考えられる。</p> <p>(5) 課外活動について 学校行事の充実に対する肯定的な意見は85%、部活動と学習の両立は75%に達している。今後もクラブ推進委員会を通じて学校生活での部活動の位置づけを定め、更なる充実を図る。</p> <p>(6) 安全管理 登下校の安全や交通マナーへの指導は肯定的な意見が80%を超えている。施設の安全性と衛生的な管理は肯定的な意見が90%を超えており、保護者の高い満足がうかがえる。</p> <p>(7) 情報発信 授業参観やPTA行事の頻度について、90%近くが肯定的な意見を持っている。学校からの文書についても、80%が肯定的な意見であり、家庭への円滑な情報伝達ができている。</p> <p>(8) その他 入学させてよかったとの意見が80%を超えている。教員の一貫した対応について、肯定的な意見は65%であった。教育研究委員会を通じて、更なる質の向上を目指す。</p>	<p><自己評価に対して></p> <p>(1) 教育課程について ・教育プログラムも改変され、上品さに加えて学力・教育レベルもさらに上がったように思う。 ・生徒たちのことを考え、よりよい教育ができるよう改善している。</p> <p>(2) 学習指導について ・教員のレベルが高く、教育熱心。生徒も保護者も教員を信頼している。 ・これからの時代の英語の必要性を考えると、大学受験に必要か否かではなく、結果として残る検定取得を期待する。</p> <p>(3) 進路指導について ・明確な目標設定が定められており、達成度も高く、着実に成果が上がっている。 ・美術・音楽専攻の先生と三者面談を設けて欲しい。</p> <p>(4) 生徒指導について ・日頃より手厚く行われている。中学生には厳しいが、高校生には少し緩いように思う。 ・LINE等のSNSについては、高校生から個人情報流出の危険性を学びながら使用するのには、社会勉強になる。「使い方」についてのメディアリテラシー教育が必要。</p> <p>(5) 課外活動について ・創立100周年記念音楽祭は、豊かな感性を育むための大切な時間を与えてくれた。子どもたちの記憶に刻まれたと思う。</p> <p>(6) 安全管理について *特記なし</p> <p>(7) 情報発信 ・厳しい募集状況の中、毎年志願者が増え、運営について右肩上がりで伸びている。</p> <p>(8) その他 ・校長・副校長・先生方の対応が早く、チームワークの良さを感じる。</p> <p><保護者による学校評価について(過年度比較)></p> <p>・「この学校に入学させて良かった」との回答が多いのは、保護者の満足度が高いから。 ・学習指導面で保護者評価が低いのは、前年と変わらず注意が必要。 ・学習意欲はコースによって差があるのでは。コース別のアンケート結果を見たい。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1 (1) 生徒 学力の 向上	①模試偏差値と大学入試結果向上を目指す。	①生徒一人一人の成績情報を把握し、中高6年間を見通した指導計画を策定する。	①エンロールメントマネジメント委員会による分析	①時宜に応じた学年毎の分析会実施による情報共有を徹底した。昨年の同時期と比べ、中3の偏差値は平均で1.4ポイント上昇。	①高校での目標達成に向けて、中3の偏差値を平均で1ポイント上昇させる。
	②コース毎に必要とされる高い教育力・授業力を実現するため、教員研修を実施する。	②教員研修の内容を入試問題の解法に特化した形にする。5教科は大学入試問題解説、4教科はアクティブラーニング（以下AL）の実践を研究する。	②教育研究委員会による授業研究実践および保護者アンケート「学習指導」項目満足度70%	②以下4点を各教科で実践した結果、保護者アンケートの満足度は63%となり、昨年比で同水準の推移を見せた。 1. 入試問題研究 2. 中高6年間の段階的・系統的指導の構築 3. ALと知識技能の習得との両立研究 4. ALの効果検証	②進学実績のための目指すべき到達点を教科内で数値化し、共有する。また、AL型授業についても研究を進め、保護者アンケートについて肯定的な意見の割合を5%上昇させる。
	③生徒の多様な希望に応じたきめ細かい進路指導を行う。	③推薦入試・AO入試を活用した多様な進路を保証する。	③ヴェルジェコース委員会と進路指導部による報告および保護者アンケート「進路指導」項目満足度70%	③概ね適切な時期に行うことができた。また、音楽・美術の各教科でも専攻独自のガイダンスを実施した。保護者アンケートの満足度は71%となり、昨年比で同水準の推移を見せた。	③高校にブルミエ・エトワールが新設され、生徒の進路はより多様化してくる。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合を5%上昇させる。
	④生徒の基本的な生活習慣を確立する。	④1. ベル席運動を活性化し、メリハリのある授業の開始を促進する。 2. マナー講習やDLS講習を行い、生徒各人の規範意識を高める。 3. カウンセラー室との連携を強化し、会議を通じて生徒情報の共有を促進する。 4. 時代の変化に合わせてSNSの利用等、現行の生徒指導ルールを段階的に見直す。	④各クラス委員からのベル席報告書と生徒指導部の年間計画および保護者アンケート「生徒指導」項目満足度80%	④以下5点を生徒指導部で実践した結果、保護者アンケート「生徒指導」項目は80%を超えた。 1. 月に一度、各クラスのベル席の成果を公表し、運動を強化した。 2. 中1～高3までそれぞれの学年の特性に応じて必要なDLS講習を実施した。 3. 保健支援委員会を通じて、カウンセラー室、保健室、教員の連携を密にし、生徒情報をきめ細やかに共有、必要な対応を行った。 4. 携帯電話の校内持ち込みルールとSNSに関する校則の見直しを行い、変更に至った。	④保護者アンケートについて、肯定的な意見の80%維持を目指す。 1. 学年、クラスにより提出率、達成率が低く、より効果的な働きかけと教員の協力が必要。 2. 中2に適切に必要なDLS講習を検討する必要がある。 3. カウンセラー室を保健室と同じフロアに移設することで、生徒の抱える個々の状況について素早いケアを行い、問題の予防に努める。 4. SNSの校則に関して、時代の状況も考慮に入れた抜本的な見直しと指導体制を学校全体で検討していくことが必要。

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1 (2) 学習環境の強化	①先進的な教育活動を研究し、ICTを利用した個別の学習機会を拡大する。	①最新の教育的取り組みを実践に移せるよう ICTを含めたハード面での環境作りを行う。	①管理職と各部長で構成する学校運営会議での議論および保護者アンケート「安全管理」項目満足度 90%	①先進的な教育的取り組みを行う学校を訪問し、本校に最適な施設の方向性を模索した。保護者アンケートの満足度は93%となり、全項目で最も高い数字を示した。	①プランニングの段階に留まらず、部屋および予算の確保を行う。また、ICTの補助員など、必要な人員の確保に努め、保護者アンケートの満足度 90%維持を目指す。
1 (3) 指導体制の充実	①エンロールマネジメントを実施し、成績等の生徒情報をビッグデータ化する。 ②進路分析会を実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標共有を行う。 ③シラバス見直しを行い、コース・学年の資格取得や模試偏差値に目標を設定する。	①同委員会を拡大し、新教務システムの導入を行う。 ②高2・3年に学期1回の模試分析会を設定し、成績状況の適宜把握を行う。 ③シラバスの内容をもとに学年ごとの検定や偏差値の達成目標を設定する。	①エンロールメントマネジメント委員会と教務部による分析および保護者アンケート「教育課程」項目満足度 80% ②エンロールメントマネジメント委員会と進路指導部による分析および保護者アンケート「進路指導」項目満足度 70% ③学校運営会議による検討および教務部と各教科会との協議および保護者アンケート「学習指導」項目満足度 70%	②各部署からの要望を教務部で集約し、本校の実務に適した新教務システムを導入することができた。保護者アンケートも満足度 80%を超え、高い水準で推移した。 ②高校3年生には、夏の三者面談を迎える時期に行った。また、2学期末には、学年ごとに行った。保護者アンケートの満足度は70%となり、昨年比で同水準の推移を見せた。 ③英検や漢検、目標偏差値などを各学年で設定した。しかし、それをシラバスに落とし込む段階に至らなかった。保護者アンケートの満足度は64%となり、昨年比で同水準の推移だった。	①生徒ポートフォリオ機能を持つオンラインシステムを一部のクラスに導入する。保護者アンケートの満足度 80%維持を目指す。 ②分析会への教員参加率が当初の予定よりも低かった。今後はより適切な時期での実施を計画する。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合を5%上昇させる。 ③各教科会で達成目標を共有し、それを達成するための詳細なシラバスを策定する。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合を5%上昇させる。
2 (1) ガバナンスの強化	①予算編成を複数年化する。	①事務局ならびに本部と協議し、具体的な方向性を模索する。	①本部・事務局・管理職との協議	①その必要性を互いが理解しながらも、具体的に状況を改善する行動へ移せなかった。	①本部とのコミュニケーションを深め、教職協働の体制作りから、現場レベルでの必要性をさらに説いていく。
2 (2) 教職協働による組織風土の改革	①データ分析の精度向上を目指す。 ②事務機能を強化し、教職協働を促進する。	①アンケート内容を精査し、マークシートリーダーの導入を行う。 ②事務局と募集から教育内容までを議題とする。	①入試広報部とアドミッションセンターによる協議 ②教頭と事務局による協議	①マークシートの導入は実現されていないが、アンケートより、データ分析を行うことで、募集活動の向上につなげていく。 ②募集の方向性を再確認することができた。	①アンケートの中に、模試のようなコード番号を設けることがそぐわない部分があり、今回は導入には至らなかった。 ②現状を正しく認識する上で、今後も同様の会議を継続する。

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
2 (3) 教育環境の整備	①生徒数に対して適正な教室数を確保する。	①教室の適切な改築や配置換えを行う。	①管理職および学校運営会議による協議および保護者アンケート「安全管理」項目満足度90%	①生徒数増加により教室・設備の増設補充を行った。保護者アンケートの満足度は93%となり、全項目で最も高い数字を示した。	①今後の少子化に伴い、生徒数が漸減していくことへの対策を行う必要がある。保護者アンケートの満足度90%維持を目指す。
3 (1) 募集強化による予算基盤の安定	①中学での入試行事参加者を増やし、実出願率の上昇を目指す。 ②高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の上昇を目指す。	①接触者の数だけでなく、行事の質を担保することで満足度を高める。 ②中学訪問の回数と頻度を昨年から大幅に増やす。	①入試広報部とアドミッションセンターによる分析 ②入試広報部とアドミッションセンターによる分析	①接触者に対する満足度をあげることに努め、昨年比で出願率が上昇した。と回答した保護者は86%に至った。 ②昨年度より中学訪問の数を増やした。高校音美ミニ説明会も初めて実施。	①小学6年生人口の減少により、出願者数減少が加速しないように今後対策が必要になる。 ②中学訪問の際に、本校のコースの特色を伝え、興味関心を持ってもらえるような工夫が必要。